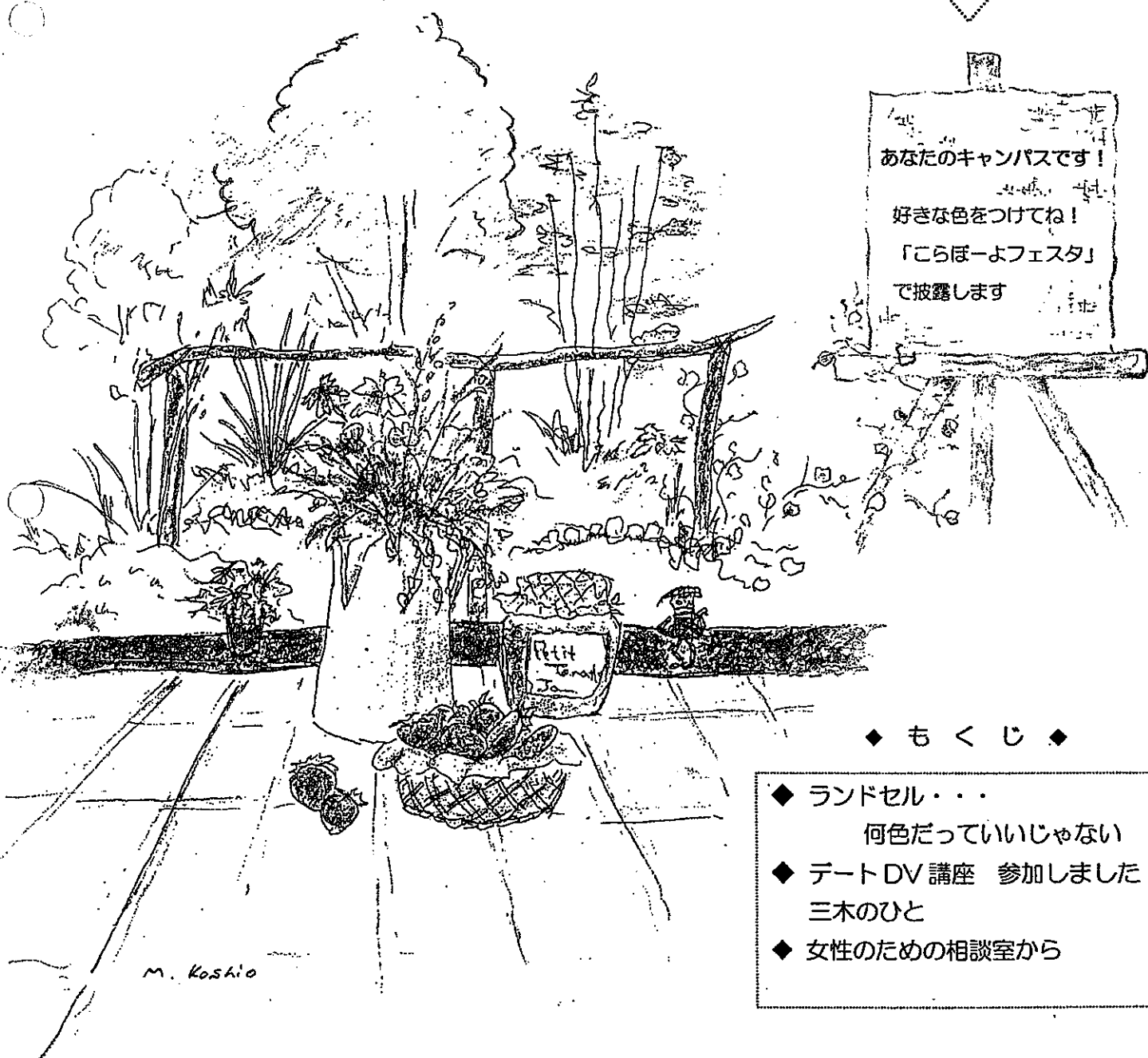


# くらぼよ

“くらぼよ”って？

コラボレーション(共同、協力)と「~しようよ」を組み合わせ、『みんな協働で男女共同参画センターで男女共同参画社会の実現に向けて活動しようよ』という想いが込められた愛称です。

2011  
第17号



あなたのキャンパスです！  
好きな色をつけてね！  
「くらぼよフェスタ」  
で披露します

◆ も く じ ◆

- ◆ ランドセル・・・  
何色だっていいじゃない
- ◆ テートDV講座 参加しました  
三木のひと
- ◆ 女性のための相談室から

## ランドセル、何色だっていいじゃない

できることから始めよう

来春、小学1年生になる息子に「ランドセル何色にする？」と尋ねると、「青」と答えた。そしてそれは紺色ではなく、あざやかな青と言う。他に「赤」と答えた男の子、「黄色」と答えた女の子もいた。最近では24色以上ものランドセルが売られ、色鉛筆のようにあざやかだ。しかし、67歳の母の幼いころからランドセルはあったらしく、色は女の子は赤、男の子は黒の2色に決まっていたと言う。なかなかその歴史的な(?)2色以外を選ぶのは、親にとっては勇気がいるようだ。しかしここはひとつ、将来を担う子ども達が一個人として自立して生きる力を身につけるべく、子ども本人に好きな色を選ばせたい。朝、集団登校時に見かけたあざやかな青色のランドセルがとてもまぶしく、無限の可能性を背負っているように見えた。

### 色・いろいろ

私たちは生活する中で、たくさんの色に触れ、囲まれて暮らしています。自由に使っているように思われる「色」ですが私たちは無意識のうちに自分で制約してしまっています。



色の制約は生まれたときから始まっています。女の子はピンクの服、男の子は水色の服を選んでしまっている人が多いのでは？小学校に入学するときのランドセルも今は色の種類も様々ではあるものの、女の子は赤やピンクやオレンジ系、男の子は黒や青や緑系のものをほとんどの子供(大人)が選んでいるようです。公共の場所でのトイレの表示についても女性用は赤、男性用は青というのが一般的になっていますが、疑問に思う人は少ないはずです。

色については赤系は女性、青系は男性ということ以外にも、年齢の違いも色で区別されていることが多いように思います。赤系とか青系などには関係なく、澄んだ明るい色は若い人で濁った暗い色はご年配の人がイメージされます。

このように身近にある「色」は私たちの固定観念でイメージを作っているときもあります。「みんなと一緒にいい」と言う人が多い中、これから自分の主張を表現する手段としても「色」をもっと意識してもいいのではないかなと思います。色を他人が決めつけるのではなく、どんな色を選んでも皆が「個性」を認め、尊重しあえる「心」を持つことが大切ではないでしょうか。



# デートDV講座 参加しました 12月17日三木高校

ウィメンズネット・こうべの2人の講師による講座が人権学習の一環として、三年生に体育館で2時間にわたり行われました。丁度歌手の鬼束ちひろが恋人の暴力について発言した直後でもあり、みんな興味深く聞いていました。自己チェック表に各自が記入したり、パワーポイントを使って丁寧でわかりやすい説明がされました。特にウケたのが生徒と先生による寸劇です。身近な話題で、デートDVのバージョンと対等なバージョンの二つの劇を通して、問題点や具体的な解決方法を考えさせられました。また「DVは身体的な暴力だけでなく、精神的・経済的・性的・社会的な圧迫も含むこと」「愛と束縛は違うこと」「対等な関係が大事だということ」がよくわかりました。

暴力をふるわれる(交際経験のある高校生の約3割がV被害者)のは自分が至らないせいではないということ、友達が被害にあっていたらどうアドバイスすればいいか、DV家庭(結婚している女性の1/3がDVを体験)の子どもへは、大人の暴力はあなたのせいではないし、あなたが決心したら暴力のない家庭を築くことができることなどたくさんのメッセージをいただきました。

性的自己決定権の大切さや性感染症の恐ろしさなどの話もあり、自分の気持ちを言葉にして伝え、相手の言葉を聞くことで、素敵な恋人関係を築いていけるのだと思いました。

この講座は一昨年三木北高校、三木東高校でも行われており、他市では中学校でもほぼ同じ内容で行われているそうです。早い機会に学べると良いですね。

## ―― 生徒たちの感想 ――

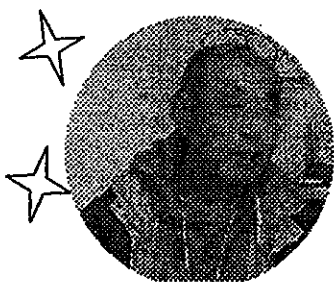
今の彼氏との関係を考え直す機会になった。当てはまる点がいくつかあって、自分は大切にされていないと感じた。

私は今まで女は男に少し遠慮するのが普通かな〜って思ってたけど、平等な関係というのが正しい付き合い方なんだってわかった。

映像で出てきたカップルはみんな笑顔で幸せそうでした。あんなふうになるには相手を好きになると同時に、自分自身も好きになって信用していかなければならないと思った。

昔からの性別に対する思い込みは今でもやっぱり残ってるんだなあと思いました。

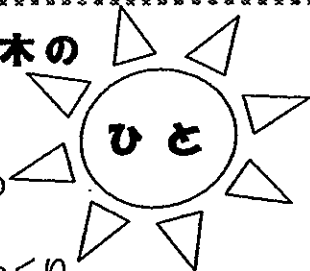
気づかないうちに彼女は自分の“もの”と思うこともあって、自分を見直してよかった。



## 喜ぶ顔がうれしくて!!

三木の

三木のエンターテイナー 谷田範雄さん



天体望遠鏡で星を見せているおじさんがいるとの噂から谷田さんを知り、天文学者を想像しながらお会いすると普通の優しくなおじさんで少しびっくり。

定年の時、新聞で「ハール・ボップ彗星」が地球に大接近という記事を読

み天体に大変興味を持ち、プラネタリウムに通い星座を学び、そのうちに自分の目で星を見てみたいとの思いが湧いてきて、望遠鏡を購入。実際に本物を見て大感動した谷田さんは、「人にもこの感動を味わってもらいたい」と、重い望遠鏡を肩にかけて旅を始めます。見た人が「すごい!」と歓声をあげて喜ぶ笑顔が忘れられなくて、あらゆるところで望遠鏡を設置し「どうぞ!土星が見えてますよ!」と呼びかけます。年中無休、お天気と相談しながら出かけます。「月まで38万Km、土星まで14億Km、大きな宇宙の中の一つの星にピタッとレンズを合わせる事が勝負」と目をキラキラさせて熱く語る谷田さんは、まるで少年のようでした。星を見た人が感想を綴るノートは13冊になり、「夜、一杯飲みながらこのノートを読むのが何よりの力。また頑張ろうと思える」と。天体望遠鏡のそばで、時にはリクエストに応じてハーモニカを吹いたり、ジュピターの歌を歌ったり、2本のテグスを使った獅子舞の操り人形でお客さんを喜ばせたり、まさに「エンターテイナー」です。その他にも小学校の「みまもり隊」など沢山の活動をされています。定年後の人生を有意義に過ごされる谷田さんですが、「今まで仕事一筋で、家の事は全て妻に任せ切りやった。日頃から出来る事は何でも自分でせなあかん。それが自分の為だから」としみじみと語っておられたのが印象的でした。これからもお元気でより多くの人に感動を与えてください。夜明け頃、どこかで谷田さんが天体望遠鏡を土星に向けて皆さんを待ってますよ!



## 自分の気持ちを伝えるために 女性のための相談室から



男女共同参画センターに相談に来られる女性たちの悩みの多くが、人間関係です。

職場やPTA、ご近所、嫁姑、夫婦、親子の関係などさまざまですが、よく聴いていると自分の気持ちを相手にうまく伝えられない、自分の意見を言うのが苦手という方が少なくありません。さらには、自分の感情がよくわからない、自分がどうしたいのかわからない、自信がもてないといったこともあるようです。

中には、子どもの頃、親からの指示や命令は多いけれど、「どうしたいの?」とか「どんな気持ちかな?」などを聴いてもらうことがほとんどなかったという人もおられます。

子育てで大切なことは、子どもが自分の気持ちやニーズ(どうしたいのか)を感じることができて、それを言葉で表現できる能力を育てていくことです。感情に良い悪いはありません。子どもに「何があったの? 何をし

たの?」と聞くだけでなく、「今、どんな気持ちかな?」と聴いてあげてください。そのためには親自身が「嬉しいね、がっかりだね、怒ってるんだね・・・」など気持ちを伝える言葉をたくさん持って、子どもたちと会話をすることです。幼くても、子どもがどうしたいのか、子どものニーズを確認することです。

自己尊重感、自己肯定感とは、自分を大切に思う、長所や欠点もふくめて、ありのままの自分を受け入れる気持ちのことです。幼い頃から、自分の気持ちやニーズをしっかりと聴いて、共感や受容してもらえ経験積むことは、それらを高め、安心や自信を育てます。自分を大事にする、尊重することができてこそ、他者を尊重することができます。

大人も子どもも同じです。これまでに、このような経験が少なかったと思う方は、今からでも、日々の暮らしの中で、自分の気持ちや自分がどうしたいのかをていねいに感じて、それを言葉にしていく作業をおすすめします。そのことによって、本来の自分や自信を取り戻して人間関係も楽になるでしょう。そのような場として相談室もぜひ利用してください。

(女性問題相談員 正井礼子)



☆女性のための相談室☆ 相談は無料で、秘密は厳守します。ちょっとした悩みの相談もお聞きしています。

電話相談 火曜日(10時~12時)・木曜日(13時~16時) ☎0794-89-2354

面接相談 火曜日(13時~16時)・木曜日(10時~12時) ☎要予約 0794-89-2331

## 「こらぼーよ」をのぞいてみませんか!

各種セミナーや講演会のお知らせなどお得な情報満載です

あんな本・こんな本

(貸出は2冊、2週間)

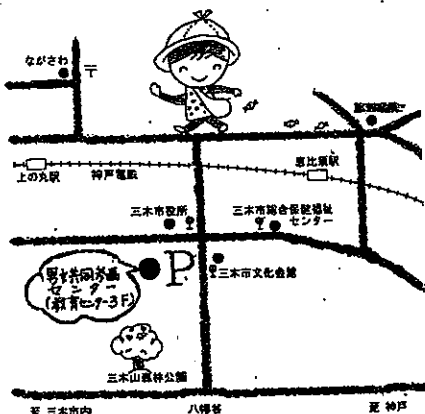
### 『勝間さん、努力で幸せになれますか』

朝日新聞出版 著者：勝間和代・香山リカ 2010年経済評論家の勝間和代さんと、精神科医の香山リカさんの対談集。離婚経験があり、3人の子どもの母でもある勝間さんは「長期、継続的に努力することが幸せの近道」と説く。「努力や頑張りとは無縁でも十分に生きる価値がある」とする香山さん。二人の議論は、仕事、結婚、幸福といったテーマで展開されますが、二人の意見は対立し、あまりにかみ合わず読者をいらさせます。しかし、読後、この部分は勝間さん、ここは香山さんなど自分の考えを整理することができ、妙に納得した一冊です。

### 『いまなぜ白洲正子なのか』

東京書籍 著者：川村二郎 2008年終戦時にアメリカGHQとの交渉で活躍した白洲次郎の妻。伯爵の娘として生まれ、アメリカへ留学するなど何不自由ない生活を送り、次郎と出会い結婚し三人の子どもを出産するが、家事・育児よりも、自分が自分であるために格闘を続けた女性。能、陶芸、古典文学などにも造詣が深く著作も多数。「好きなことを何でもいいから一つ、井戸を掘るつもりでとことんやると良いよ」という言葉やその生き方そのものが、現代を生きる私たちへのアドバイスになっています。

### 三木市男女共同参画センター案内図



### 三木市男女共同参画センター

(愛称こらぼーよ)

〒673-0433 三木市福井 1933-12

(三木市立教育センター3F)

TEL&FAX 0794-89-2331

開館時間 9:00~17:00

休館日 土・日・祝日・年末年始

E-mail: jinken@city.miki.lg.jp

ホームページや広報みきもご覧ください

### 編集後記

お皿に絵を描く。お庭に絵を描く。大きさに違いはあるけれど、色を塗る楽しさは同じこと。ほっとしたいのか、ドキドキさせたいのか。同じ物でも、重ねる色で違って見えるでしょ。 maaco

### 企画編集

情報誌こらぼーよ編集グループ

発行

三木市男女共同参画センター